

【一葉の魅力⑧化粧品も学べる薬学部〈2〉データサイエンスの技能と医療の専門知識を兼備 薬科学科の学生が専門店や薬局でワークショップ】

2025/3/13公開



第一薬科大学の薬学部は化粧品についても学習できます。中原広道・薬学部長は「本学の学生の強みはデータサイエンスの技能に加え、医療の専門知識を兼ね備えていること」と断言。3月12日には佐賀市内の化粧品専門店や薬局などでワークショップが行われました。

薬局や化粧品専門店などを運営する株式会社ミズ（本社・佐賀市）の各店舗で実施。薬科学科3年5人はA班とB班に分かれ、同社の化粧品専門店と薬局をそれぞれ見学。スタッフから説明を受けました。ミズ本社へ移動後、A班は〈佐賀ゆめタウン店における20代～30代の離脱防止のための店づくりの施策提案〉、B班は〈薬局における離脱防止のための取り組み〉を発表するにあたり、現状説明を受けました。

A班は商品価格が比較的高額であることや、売り場の位置が奥まっているため男性客が入りにくい点を指摘。一度来店しても再び訪問しない顧客が多いことをデータで示したうえで、SNSを活用した情報発信など、解決策をいくつか提案しました。

一方、B班はデータ分析の結果、糖尿病や脂質異常症を抱える50代の患者が特に離脱率が高く、80代の脂質異常症患者の離脱率は逆に低いことを報告。50代の退社時間の平均を分析した結果、仕事終わりに薬を受け取ることが難しい患者が一定数存在する可能性も指摘したうえで、24時間受け取りが可能なサービスの認知度アップの重要性を説いたりしました。

学生からは「実際のデータを使って考える機会が貴重だった」などといった感想が寄せられ、今後の就職活動や職業選択にも活かせることを実感した様子でした。

中原薬学部長は「医療現場における課題を深く理解したうえでデータを活用して解決策を導き出せる点が他大学のデータサイエンス教育と大きく異なります。今回のワークショップでは現場の課題をデータに基づいて分析しながらその解決策を考案・提案するという、非常に実践的な経験を積んでもらいました。学生にとって大きな成長につながったのではないのでしょうか」と話していました。